

（第1面）

産業廃棄物処理計画書

令和4年 6月 15日

尼崎市長 殿

提出者



住所 尼崎市東七松町2-4-16

氏名 尼崎市公共下水道管理者
尼崎市公営企業管理者 塚本 英徳

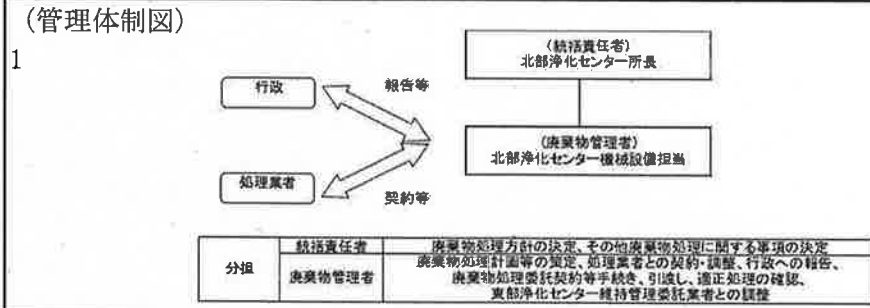
（法人にあつては、名称及び代表者の氏名）

電話番号 06-6499-4515

廃棄物の処理及び清掃に関する法律第12条第9項の規定に基づき、産業廃棄物の減量その他その処理に関する計画を作成したので、提出します。

事業場の名称	東部浄化センター
事業場の所在地	尼崎市西松島町32
計画期間	令和4年4月1日～令和5年3月31日
当該事業場において現に行っている事業に関する事項	
①事業の種類	3631 下水道処理施設維持管理業
②事業の規模	処理量 2,548万m ³ (令和3年度実績)
③従業員数	27人(令和4年4月1日現在)
④産業廃棄物の一連の処理の工程	別紙のとおり

産業廃棄物の処理に係る管理体制に関する事項



産業廃棄物の排出の抑制に関する事項

①現状	【前年度（令和 3 年度）実績】	
	産業廃棄物の種類	別紙のとおり
	排出量	t
	(これまでに実施した取組) 汚泥（下水汚泥）は、流入下水の水量、水質等の状態によって変動するが、水処理施設からの汚泥の引き抜き量をきめ細やかに設定することにより、過剰な汚泥の引き抜きを防止している。	
②計画	【目標】	
	産業廃棄物の種類	別紙のとおり
	排出量	t
	(今後実施する予定の取組) 汚泥（下水汚泥）は、上述のとおり汚泥の発生工程から削減が難しいが、兵庫東流域下水汚泥広域処理場（兵庫東スラッジセンター）と連携を取りながら、適切な処理に努めていく。その他については、今後とも分別を徹底し、有価売却できるものを増やすことにより、廃棄物排出量を減らしていく。	

産業廃棄物の分別に関する事項

①現状	(分別している産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) 廃棄物の保管場所を、廃棄物の種類ごとに分け、分別保管している。
②計画	(今後分別する予定の産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) 今後とも分別を徹底・継続していく。

(第3面)

自ら行う産業廃棄物の再生利用に関する事項

①現状	【前年度（令和 3年度）実績】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら再生利用を行った産業廃棄物の量	別紙のとおり	t
	(これまでに実施した取組) 特になし		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら再生利用を行う産業廃棄物の量	別紙のとおり	t
	(今後実施する予定の取組) 特になし		

自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項

①現状	【前年度（令和 3年度）実績】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら熱回収を行った産業廃棄物の量	別紙のとおり	t
	自ら中間処理により減量した産業廃棄物の量	t	t
	(これまでに実施した取組) 特になし		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら熱回収を行う産業廃棄物の量	別紙のとおり	t
	自ら中間処理により減量する産業廃棄物の量	t	t
	(今後実施する予定の取組) 特になし		

(第4面)

自ら行う産業廃棄物の埋立処分又は海洋投入処分に関する事項

①現状	【前年度（令和 3年度）実績】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った産業廃棄物の量	別紙のとおり t	t
	(これまでに実施した取組) 特になし		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行う産業廃棄物の量	別紙のとおり t	t
	(今後実施する予定の取組) 特になし		

産業廃棄物の処理の委託に関する事項

①現状	【前年度（令和 3年度）実績】		
	産業廃棄物の種類		
	全処理委託量	別紙のとおり t	t
	優良認定処理業者への処理委託量	t	t
	再生利用業者への処理委託量	t	t
	認定熱回収業者への処理委託量	t	t
	認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	t	t
	(これまでに実施した取組) 汚泥（下水汚泥）について、委託処理業者から処理状況等について定期的に報告を受け、適切に中間処理が行なわれているかを確認している。その他の廃棄物は、分別を徹底し、できるだけ有価売却し、リサイクルを推進している。		

②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類		
	全処理委託量	別紙のとおり	t
	優良認定処理業者への処理委託量	t	t
	再生利用業者への処理委託量	t	t
	認定熱回収業者への処理委託量	t	t
	認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	t	t
	(今後実施する予定の取組) 上述の取組みを継続していく。		

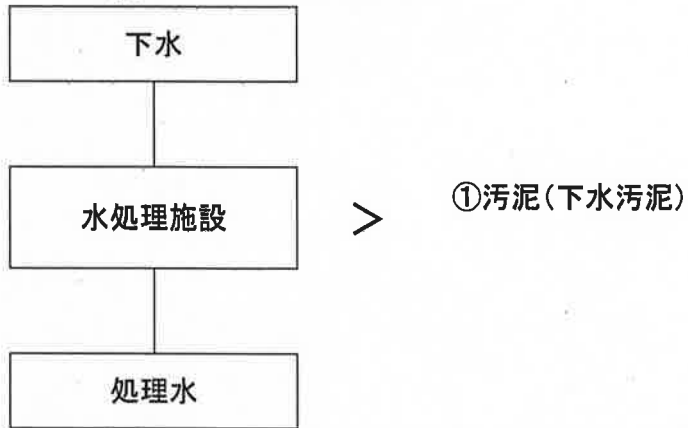
(第6面)

備考

- 1 前年度の産業廃棄物の発生量が1,000トン以上の事業場ごとに1枚作成すること。
- 2 当該年度の6月30日までに提出すること。
- 3 「当該事業場において現に行っている事業に関する事項」の欄は、以下に従って記入すること。
 - (1) ①欄には、日本標準産業分類の区分を記入すること。
 - (2) ②欄には、製造業の場合における製造品出荷額（前年度実績）、建設業の場合における元請完成工事高（前年度実績）、医療機関の場合における病床数（前年度末時点）等の業種に応じ事業規模が分かるような前年度の実績を記入すること。
 - (3) ④欄には、当該事業場において生ずる産業廃棄物についての発生から最終処分が終了するまでの一連の処理の工程（当該処理を委託する場合は、委託の内容を含む。）を記入すること。
- 4 「自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、自ら中間処理を行うに際して熱回収を行った場合における熱回収を行った産業廃棄物の量と、自ら中間処理を行うことによって減量した量について、前年度の実績、目標及び取組を記入すること。
- 5 「産業廃棄物の処理の委託に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、全処理委託量を記入するほか、その内数として、優良認定処理業者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行令第6条の11第2号に該当する者）への処理委託量、処理業者への再生利用委託量、認定熱回収施設設置者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律第15条の3の3第1項の認定を受けた者）である処理業者への焼却処理委託量及び認定熱回収施設設置者以外の熱回収を行っている処理業者への焼却処理委託量について、前年度実績、目標及び取組を記入すること。
- 6 それぞれの欄に記入すべき事項の全てを記入することができないときは、当該欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、産業廃棄物の種類が3以上あるときは、前年度実績及び目標の欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、それぞれの欄に記入すべき事項がないときは、「―」を記入すること。
- 7 ※欄は記入しないこと。

当該事業所において現に行なっている事業に関する事項

○ 産業廃棄物の一連の処理の工程



①汚泥 (下水汚泥)

パイプ圧送→脱水・焼却→埋立

産業廃棄物の排出の抑制に関する事項

① 現状 前年度（令和3年度）実績

産業廃棄物の種類	汚泥（下水汚泥）
排出量	278,282t

②計画 目標

産業廃棄物の種類	汚泥（下水汚泥）
排出量	304,700t

自ら行う産業廃棄物の再生利用に関する事項

①現状 前年度（令和3年度）実績

産業廃棄物の種類	汚泥（下水汚泥）
排出量	0t

②計画 目標

産業廃棄物の種類	汚泥（下水汚泥）
排出量	0t

自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項

①現状 前年度（令和3年度）実績

産業廃棄物の種類	汚泥（下水汚泥）
排出量	0t

②計画 目標

産業廃棄物の種類	汚泥（下水汚泥）
排出量	0t

自ら行う産業廃棄物の埋立処分または海洋投入処分に関する事項

①現状 前年度（令和3年度）実績

産業廃棄物の種類	汚泥（下水汚泥）
排出量	0t

②計画 目標

産業廃棄物の種類	汚泥（下水汚泥）
排出量	0t

廃棄物の処理の委託に関する事項

①現状 前年度（令和3年度）実績

産業廃棄物の種類	汚泥（下水汚泥）
全処理委託量	278,282t
優良認定処理事業者への処理委託量	0t
再生利用業者への処理委託量	0t
認定熱回収業者への処理委託量	0t
認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	0t

②計画 目標

産業廃棄物の種類	汚泥（下水汚泥）
全処理委託量	304,700t
優良認定処理事業者への処理委託量	0t
再生利用業者への処理委託量	0t
認定熱回収業者への処理委託量	0t
認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	0t